

昭和の安曇野 望郷画集

堀金出身 宮沢利昭さん 初出版

安曇野市堀金三田出身の
画家・宮沢利昭さん(76)

「東京都国分寺市」がこの
ほど、初の画集『絵草子
子供たちの昭和』(工房ペ
イシエ)を出版した。ふる
さとの思い出を中心に、
子供時代の遊びの風景や農
村の暮らしぶりなどを描い
たイラスト約400点を収
めた。

鉛筆と色鉛筆で描いた温
かみのある絵を時代の流れ
やテーマに合わせて数点ず
つ組み合わせ掲載した。
暮らし、遊び、年中行事、
学校行事、農作業などさま



画集を出版した宮沢さん

は「ふざけてると父ちゃん
にくざられる(叱られる)
よ!」と書かれている。

宮沢さんは松本県ヶ丘高
校、東京芸術大学美術部を
卒業し、テレビ局の美術担
当を長年務めた。仕事の傍
ら、創作活動を続けていた
が、定年後に本格的に活動
を始めた。「描いた時代と
同世代の人たちに懐かしん
でもらいたいことはもちろ
ん、子供や孫にこういう時
代だったと伝えてほしい」
と話している。

2000円(税込み)で、
A4判、86頁、希望者はフ
ァクスもしくははがきで申
し込む。問い合わせは宮沢
さん(東京都国分寺市本多
2-1-8-36、ファクス04
2-3224-7843)
へ。

ざまな場面を通じ、戦前か
ら昭和30年ころまでの子供
の姿が生き生きと表現され
ている。
イラストには当時の子供
たちの会話も方言交じりで
記されていて、謄写版で文
集を作る場面では「失敗
だ!びちゃっちゃう(捨て
る)よ」、麦踏みの場面で

(降旗玲菜)

昭和の子ども 絵本に

安曇野出身の画家・宮沢さん 自費出版

安曇野市出身の画家宮沢利昭さん(76)＝東京都国分寺市＝が絵本「絵草子 子供たちの昭和」を自費出版した。安曇野で育った子どものころを思い出し、当時の遊びや食事、学校生活を鉛筆と色鉛筆で表した。「終戦、戦後、経済成長へと暮らしが大きく変わった時代を僕なりに表現したかった」と話している。

見開きの右側に絵、左側に短い解説文を載せた。見開きごとに「戦中」「遊び」とテーマがある。「戦中」では、空襲警報を聞いて机の下に潜り込んだり、空襲などでガラスが飛び散らないように窓に紙を貼ったりする子どもの姿を描いた。「遊び」

には、馬の腹の下をくぐる度胸試しの様子などがある。

宮沢さんは松本県ヶ丘高から東京芸術大に進みデザインを学んだ。テレビ局に入社し、美術部門に所属。定年後に入ったテレビ制作会社時代も含め、向田邦子さんが脚本、久世



「絵草子 子供たちの昭和」を自費出版した宮沢さん

戦中から戦後へ 「変動の時代 伝えたい」

光彦さんが演出を手掛けたドラマ制作に関わり、セットのデザインなどを担当した。

宮沢さんが昭和の絵を描くようになったのは2006年。3歳年上の久世さんが亡くなり、「僕も自分なりに昭和を描き残したいと思うようになった」。テレビ制作会社を辞め、創作に専念した。

12年、描きためた30枚を電子図書にすると、国内外で900部近くが売れた。同世代を中心に「紙に印刷された本を見たい」という声が増えて昨年12月に「絵草子 子供たちの昭和」を出版した。

取り上げた戦中から昭和40年代までを、宮沢さんは「終戦の日を境に目に見えない重しが取れ、次第に豊かになっていく変動の大きかった時代」と表現する。「そんな時代があったことを大勢に伝えたい」とも話す。

A4判86ページ。2千円(税込み)。購入希望者は「工房ペイシエ」(〒185-0011東京都国分寺市本多2-8-36)へ郵便かファクス(番号042・324・7843)で注文する。送料は宮沢さんが負担する。